

笠間稲荷神社◎社報

胡桃

く
る
み



令和2年

新春

ごあいさつ

新春を寿ぎ、謹んで皇室の弥栄と国家の隆昌、氏子崇敬者の皆様の安寧をお祈り申し上げます。

ここのとこ毎年のように続いている記録的な大雨・洪水やこれまで経験したことのないような大型台風による自然災害の発生には本心に心を痛めておりますが、被災されました地域の方々には心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り致します。

さて、昨年の十一月十四日の夕刻から十五日の未明にかけて、皇位継承儀式の中でも大変重要な大嘗祭が斎行されました。

大嘗祭とは新天皇が御即位後に初めて臨まれる一代で一度だけの大規模な新嘗祭のことで、新たな祭場として造営されました大嘗宮においてその年の新穀を皇祖神の天照大神をはじめ天地の神々にお供えし、自らも食されて新たな力を得て国家と国民の安寧と五穀豊穡を祈られるものです。古くから祭りは神聖な時間帯である夜に行われ、歴代の天皇は国民の幸せと世の平安を祈る祭祀を執り行うことを最も大事な務めとされてきました。私たちの暮らしは命を育む十分な食が満たされることによって成り立っています。歴史的に飢えのない社会を築くことが国作りの根幹となってきました。日本書紀によれば、当社の御祭神宇迦之御魂神は飢えを癒やすためにイザナギノミコトから誕生したことが記されています。

遙か遠い昔から私たちの祖先は、豊かな自然の恵みを受けながら過ごしてきました。「たべもの」という言葉は「たまわりもの」から来ています。神道では神祭りの基本儀礼は、神様から与えられた賜り物である神饌を供えて感謝することにあります。先ず神様に召し上がっていただき、その後で、私たちも食します。

「飯」は「召し」上がるに由来します。神様と人とが共食することにより神の力をいただいで、生命力が強化されていくものと考えられてきました。食物の中でも特に日本人の暮らしを支え、安定させてきたものが稲作でした。

天照大神は孫の瓊瓊杵尊を降臨させる際に、三つの大切なことを授けました。そのうちの一つが天上界の田で育った稲を地上に植えて、実り豊かな、安定した国にしなさいというものでした。大嘗祭は新天皇が天照大神の御意思である稲作文化を受け継いで、天下万民のために祈る重儀となっています。

常に国民を思い、国民のために祈ることを特に大切なお務めとされておられました上皇陛下は御在位中に次のような歌を詠まれています。

うち続く田は豊かなる緑にて 実る稲穂の姿うれしき
豊かなる実りなりしといふ人の多き 今年の秋を喜ぶ

上皇陛下が御譲位されますことが決まりました年に、神道青年全国協議会主催の第一回フォトコンテストで最優秀賞に輝いた作品は一面に広がる水田の中に立つ鳥居の様子を撮影したもので、まさに日本の原風景と言えるものでした。鳥居があることによりそこにあるのは単なる水田ではなく、神様の見守る神田であることを私たちに強く感じさせるものでした。

皆様には稲の豊穡をもたらして下さっている食の神様、命の根の神様であられる宇迦之御魂神をお祀りしている当社の年間祭事にぜひご参列されて、日本文化の基層となっているものを直に感じ取っていただければと思います。

笠間稲荷神社 宮司 塙 東男

祭事予定

一月

- 一日 歳旦祭
- 三日 元始祭
- 五日 新始祭
- 七日 昭和天皇祭遙拝式
- 十日 初事比羅祭
- 十四日 尖閣諸島安全祈願祭
- 十五日 古札炎上祭
- 二十二日 御本殿豊奉納奉告祭
初甲子祭
- 二十四日 旧大祓式
- 二十五日 旧歳旦祭
初天神祭

歳旦祭

新年を祝い皇室の弥栄、国の隆昌、世界の平和を祈るとともに、氏子・崇敬者の方々の安泰を祈る祭典です。

当社は、県内の神社で最大の人出となります。

二月

- 三日 節分追儺式
- 七日 北方領土返還祈願祭
- 八日 針供養祭
- 九日 初午大祭
- 十一日 紀元祭
- 十四日 祈年祭・初穂講大祭
- 二十三日 天長祭

節分追儺式

当社では節分の日に、午後三時と午後七時の二回、神事節分追儺式を行います。「節分祭」は冬の節から春の節に移る立春の前夜に行い、悪疫退散・除災招福を祈る神事です。

当社の節分追儺式は拝殿においての祭典終了後、境内の特設撤豆台において神職が古式に則り、桃の弓、芦の矢、桃の杖で追儺式を行います。

初午大祭・旧初午大祭

初午祭とは、新暦・旧暦ともに二月の最初の午の日に行われるお祭りであり、「事始め」「仕事始め」の日として大切にされています。この時期は厳冬から春に季節が移り変わり、陽気はだんだんと盛んになり、草木を始め万物が活動を始める時期です。

当社ではこの新暦、旧暦の初午の日に毎年収穫される穀物の豊作と商工業をはじめ、すべての物事が順調に育ち、発展することを稲荷の大神様に祈願し、国家と国民の安泰を祈ります。



祭事予定

三月

四日 旧初午大祭

八日 絵馬祭・絵馬炎上祭

二十日 春季皇霊祭遙拝式



絵馬祭

山車、狐の行列、稲荷囃子など賑やかな行列で絵馬を回収しながら氏子区域を巡り、絵馬に託された皆様の御祈願が成就いたしますように祈念する祭典です。

行列後、神社境内に於いて絵馬炎上祭を斎行し、拝殿前にて御焚き上げいたします。併せて、「絵馬コンクール」も開催し当社廻廊に展示いたします。

四月

三日 神武天皇祭遙拝式

九日 例大祭

二十九日 昭和祭

例大祭

四月九日の例大祭は、当社御創建の日とされ、年間六十ものお祭りが斎行されている中で最も重要な祭典です。

午前十一時、正装に身を包んだ宮司以下、神職、献幣使、献香献茶宗匠、氏子総代らが伶人等に先導されながら参進し、皇室の弥栄、国家の繁栄、世界の平和、国民の幸福を祈願します。



五月

十日 御田植祭

二十五日 講社大祭



御田植祭

当社では、毎年五月十日、稲荷神社御神饌田において古式ゆかしくその年の豊穰を祈願し稲苗の植え付け神事を斎行します。

六月

二十八日 車の茅の輪くぐり

三十日 夏越の大祓

茅の輪くぐり



車の茅の輪くぐり

当社では、六月晦日に斎行します夏越の大祓式の一環として、「車の茅の輪くぐり」を行っております。これは、半年間に知らず知らずのうちに犯した罪や穢れを茅の輪をくぐることによって祓い清める神事です。「車の茅の輪くぐり」は車社会の進展による交通安全の意識高揚を目的としております。



 車の茅の輪くぐり 6月28日(日) 午前10時から 午後3時まで

笠間稲荷神社外苑駐車場 (佐白山麓)
(笠間市笠間1014-4)

初穂料1,000円より

神職による神事が行われ、直径6メートルに及ぶ茅の輪を一般車から大型車までがくぐり、交通安全・事故防止を祈願します。

交通安全
茅の輪守り付き



車の茅の輪くぐり会場案内図



笠間稻荷神社日誌



令和元年

赤字：祭典
青字：結婚式
黒字：講中参拝・正式参拝
緑字：行事

◆七月

- 十四日 水神講
- 結婚式 坂本家・古川家
- 十六日 茨城県神社庁西茨城支部総会
- 十八日 当社責任役員会・総代会
- 二十六日 甲子祭
- 二十七日 笠間稻荷神社敬神婦人会総会
- 笠間稻荷神社敬神婦人会
会長 檜山公江様
- 三十一日 旧大祓式

◆八月

- 一日 本社御田植祭
- 事比羅祭
- 末社祭
- 二日 國學院大學指定実習
(八日まで)
- 四日 國學院大學指定実習生
献燈祭
- 茨城国体採火式
- 八日 結婚式 星野家・岡田家



十日 正徳講

十八日 宇都宮笠間講

二十五日 真岡加波山登山講

結婚式 小澤家・中山家

二十六日 須佐神社

宮司 小賀宏澄様

岩手県神社庁気仙支部

支部長 長谷川瑞彦様

二十七日 大洗磯前神社

権禰宜 吉田卓史様

國學院大學指定実習生

三十日 天下大祓

◆九月

- 八日 安達太良神社
- 九日 埼玉丸元講
- 十日 抜穂祭
- 十三日 中秋祭
- 十四日 五丁目友の会
- 十八日 寶登山神社
- 宮司 曾根原正宏様
- 二十二日 小笠原流弓馬術礼法奉納



二十三日 秋季皇霊祭遥拝式

二十四日 甲子祭

二十八日 結婚式 村上家・永田家

二十九日 西堀氷川神社・栄和東神社

宮司 真取正典様

◆十月

- 二日 小泉神社総代会
- 宮司 井上正俊様
- 代表総代 尾崎清様
- 八日 神宮大麻頒布始奉告祭
- 九日 江北氷川神社・兼務社各神社氏子会
- 宮司 八木健一郎様
- 十三日 結婚式 北井家・平子家
- 十七日 神嘗奉祝祭
- 十九日 菊まつり開催奉告祭
- 笠間の菊まつり開場式
- 假屋崎省吾の世界展
(二十日まで)
- 二十一日 講社大祭
- 二十二日 即位礼奉祝祭
- 東京国立講



二十三日 天録稻荷神社

宮司 井上務様

総代会長 瀧正教様

二十四日 尚齒祭

二十六日 茨城県敬神婦人連合会大会

茨城県敬神婦人連合会

会長 広瀬悦子様

二十七日 「私の好きな笠間」

図画コンクール表彰式

諏訪神社氏子会

総代会長 山崎敏弘様

東京中央講

◆十一月

三日 明治祭

神事流鏝馬

工才ピア連邦民主共和国大使館

駐日全権大使カサ・テクレベルハン・

ガブラヒウオット様

東京東南国八町睦笠間勇山講

下前笠間稻荷神社講

松伏地区笠間講

五辻笠間講

増森新田講



四日

結婚式 太田家・塩幡家

フラダンス奉納

Mフラスタジオ

代表 池澤美恵子様

インスタロクター

殿塚幸恵様

番匠免講・南百笠間講

瑞穂観光東部営業所

越谷穀信講

笠間示現流奉納

大和古流奉納

笠間友部街商組合

匠瑳立身太々講

一宮観光サービス

十一日

西茨城支部神社総代会

西茨城支部神社総代会

会長 徳藏常松様

十四日

坂東市岩井職工組合

十五日

大嘗祭奉祝祭

霜月祭

十六日

立野神社宮司 戸澤務様

立野神社氏子総代会会長 大久保正様

立野神社護持会会長 藤田佳史様

橋本同姓会・小松稻荷講

川口平和講・船橋大日講



二十一日 埼玉県酒造組合中部ブロック

国際ロータリー第二八二〇地区

ガバナー 中村澄夫様

二十二日

三峯山奥之宮神聖講社

二十三日

新嘗祭

献穀献繭祭

甲子祭

二十四日 笠間の菊まつり千秋楽

二十八日 当社責任役員会・総代会

三十日 結婚式 橋本家・須藤家

◆十二月

一日 (有)山崎石材店

七日 結婚式 和知家・櫻井家

八日 茨城県菊花連盟菊花品評会表彰式

十一日 天ノ響奉納

代表 久米健太様

引率 すぎ音のお宿

小池千鶴子様

結婚式 板倉家・大月家

結婚式 中村家・矢之目家

二十二日 御火焚串炎上祭

二十五日 ゼリア新薬工業株式会社

口サラインド株式会社

二十八日 鹿島祓

三十一日 大祓式



祈禱案内 交通安全祈禱

自動車をはじめ、船や飛行機など様々な移動手段のある現在、ご自身はもとより同乗の方々や乗り物自体に災いが起こおらぬよう、お祓い下さい。日々の乗り物による移動が安全でありますよう交通安全のご祈禱を承っております。

(初穂料 五千円より)



交通安全祈禱をお受けの方には、交通安全のお守り・ステッカーをお授けしております。こちらは初穂料五千円の授与品です。

当社ホームページからのご祈禱のご予約が頂けます。

◎ ホームページ

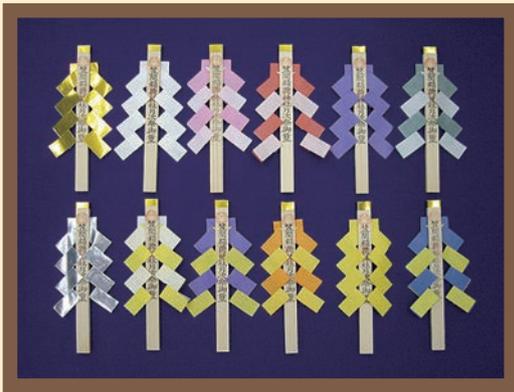
<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

月詣り

月詣りとは月ごとに大神様のご加護を受け、それまでの平穩無事を感謝し、新たなご神徳を頂きます。思い立った月より始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与してあります。



奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納を募集しております。ご奉納頂いた方のご芳名は末永く顕彰させて頂きます。詳しくは社務所までご相談ください。

◎ 奉納者芳名

「水墨画 六点」

飛田 硯水 殿

(令和元年十月二十七日奉納)



胡床、舞装束、几帳等多種に渡り受け付けております

厄除け

厄年とは年齢的な生活の変化や、それに伴う体調の変化などの節目とされ、災難が降りかかりやすい年回りとされてきました。

厄年を迎えると神様のご加護を頂いて災難が降りかからないよう、また小難ですむように神社へお参りをし、厄除けのご祈禱が受けられています。

男 性			女 性		
前厄	本厄	後厄	前厄	本厄	後厄
24歳 平成9年生	25歳 平成8年生	26歳 平成7年生	18歳 平成15年生	19歳 平成14年生	20歳 平成13年生
41歳 昭和55年生	42歳 昭和54年生	43歳 昭和53年生	32歳 平成元年生	33歳 昭和63年生	34歳 昭和62年生
60歳 昭和36年生	61歳 昭和35年生	62歳 昭和34年生	36歳 昭和60年生	37歳 昭和59年生	38歳 昭和58年生
			60歳 昭和36年生	61歳 昭和35年生	62歳 昭和34年生

※上記のうち、特に男性42歳、女性33歳は大厄とされています。 ※年齢は数え年です。

方位除け

人には年ごとに悪い方角があり、その方向へ行く際の安全、引っ越しによる転居、また新築、改築などによる家相の変化に障りがないようお祓いを致します。

ご家庭でも、家族全員がそろっての良い方角に巡り会う事はなかなか出来ないことから、大切な人が災難から身を守れるよう、ご祈禱が受けられます。

七赤金星 中央(八方塞がり)			一白水星 北東(表鬼門)		
100歳 大正10年生	91歳 昭和5年生	82歳 昭和14年生	103歳 大正7年生	94歳 昭和2年生	85歳 昭和11年生
73歳 昭和23年生	64歳 昭和32年生	55歳 昭和41年生	76歳 昭和20年生	67歳 昭和29年生	58歳 昭和38年生
46歳 昭和50年生	37歳 昭和59年生	28歳 平成5年生	49歳 昭和47年生	40歳 昭和56年生	31歳 平成2年生
19歳 平成14年生	10歳 平成23年生	1歳 令和2年生	22歳 平成11年生	13歳 平成20年生	4歳 平成29年生

三碧木星 北(北方)			四緑木星 南西(裏鬼門)		
105歳 大正5年生	96歳 大正14年生	87歳 昭和9年生	106歳 大正4年生	97歳 大正13年生	88歳 昭和8年生
78歳 昭和18年生	69歳 昭和27年生	60歳 昭和36年生	79歳 昭和17年生	70歳 昭和26年生	61歳 昭和35年生
51歳 昭和45年生	42歳 昭和54年生	33歳 昭和63年生	52歳 昭和44年生	43歳 昭和53年生	34歳 昭和62年生
24歳 平成9年生	15歳 平成18年生	6歳 平成27年生	25歳 平成8年生	16歳 平成17年生	7歳 平成26年生

※年齢は数え年です。

東京別社のご案内

由緒

東京都中央区日本橋浜町に鎮座する笠間稲荷神社東京別社は、安政六年（一八五九年）に、笠間稲荷神社本社より御分霊を受けて、笠間城主牧野家の下屋敷（現在の日本橋、浜町公園の一部）に建てられ、お祀りをされるようになりました。

もともとこの地は徳川五代將軍綱吉の寵臣牧野成貞公の拝領地の一部で、邸内には稲荷社がありました。延享四年（一七四七年）に牧野氏が笠間城主となったことが縁で笠間稲荷神社を篤く信仰するようになり、貞直公の時に御分霊を受けてこの社に合祀したのが起源となりました。

昭和二十年には戦災により被害を受け、復興には大変苦慮しましたが、同二十一年の十二月に本社の援助により御本殿と仮社務所が出来上がり、二十八年の九月にはご崇敬者のご尽力により拝殿の再建を見るに至りました。三十二年には社務所、三十三年には玉垣、五十三年には幣殿が完成して、今日に至っております。

日本橋七福神巡り

日本橋七福神は他所とは異なり、すべて神社で構成され、お祀りされている神社がそれぞれ近くにあり、日本で一番七社の巡拝が短時間で出来るという特長を持っております。

その上、日本橋通りや人形町通りは、江戸下町の伝統を持つ繁華街であり、下町情緒に触れながら日本橋七福神を巡拝することが出来ます。



〈日本橋七福神巡り各社〉

- 小網神社……………福祿寿
- 宝生弁財天(水天宮境内)……弁財天
- 末廣神社……………毘沙門天
- 梶森神社……………恵比寿神
- 松島神社……………大国神
- 茶ノ木神社……………布袋尊
- 笠間稲荷神社(東京別社)……寿老神

※巡拝の順番は定められておりませんので、ご自由にお巡りください。

寿老神社

御本殿に向かって左側の寿老神社には、寿老神がお祀りされております。寿老神は、長寿・お導き・幸運の御神徳により運命を良い方向に切り開いて下さる神様です。日本橋七福神の一神として多くの方にご崇敬されております。

晴雲神社

御本殿に向かって右側の晴雲神社には、牧野家の忠臣、藤江監物がお祀りされております。

笠間稲荷神社東京別社

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町2-11-6

電話:03-3666-7498

FAX:03-3666-7438



笠間稻荷神社の変遷

御本殿



昭和30年代



現在



境内図

当社の御本殿は、江戸時代の末期、安政・
 万延年間（一八五四～一八六〇）の建築です。
 銅瓦葺総櫓の権現造で、昭和六十三年に国
 の重要文化財に指定されました。
 古くは現在の内陣を本殿、外陣を拜殿として
 祭儀をおこなっておりました。

しかし、年々ご崇敬者の増加に伴い社殿手狭となり、昭和三十五年、拜殿の新築に際しま
 して、旧地より現在地に移動し、総じて本殿となりました。

御本殿を現在の場所へ移築するのの際し、昭和三十四年八月二十八日に御本殿曳初の儀が、
 江戸の華と言われる伝統的な江戸消防記念会役員六十余名の木遣りに合わせ、当社々宝の
 大毛網を用い、町内の二百余名の稚児によって執り行われました。



曳初の儀

神社のいろいろは

Q 神社で結婚式はできますか？

いつでもできますか？

A 稲荷大神様の御前で夫婦の誓いをする気持ちがある方であればどなたでも神前結婚式を挙げる事ができます。

年末年始や神社で祭事等がある日を除き、挙式ご希望の日時をお伺いいたしますのでご相談ください。



Q 挙式までのおおまかなスケジュールを教えてください

A まずはご希望日を神社までお問い合わせください。挙式日が決定後、仮予約（二週間有効）または本申込みをしていただきます。挙式の二週間前〜一週間前頃を目安に最終打ち合わせにご来社いただき、実際に式場にて三献の儀（二三九度）や玉串等の作法の説明をいたします。当日は、挙式時間の三十分前までに神社にご参着いただきます。

その他、ご質問等ございましたらお問い合わせ下さい。
 笠間稲荷神社社務所 ☎0296(73)0001

Q 写真・動画撮影は自由ですか？

A 挙式中の撮影には制限があります（祓詞・祝詞奏上中は不可）。また、神前に近い場所へは立ち入りできませんので、撮影者の方には挙式前にご説明いたします。

挙式前後の境内での集合写真撮影等は自由です。その際にご参拝の方々へのご配慮をお願いしております。



笠間稲荷神社

ホームページ

